

## 令和7年度 第3回 GIGA スクール推進協議会 議事録

### 1 日時

令和8年1月27日(火) 10:00~12:00

### 2 場所

仙台市役所上杉分庁舎 12階教育局第1会議室

### 3 委員

安部委員 井阪委員 板垣委員 稲垣委員 及川委員 越坂委員 佐藤委員 中村委員  
(五十音順、全8名中8名出席)

### 4 事務局

郷家副教育長、花田次長、田中次長兼学校教育推進部長、佐藤学校教育調整担当課長、  
新妻教育指導課長、高橋教育指導課 ICT教育推進担当課長、  
芳賀主幹兼教育課程係長、中田教育センター主幹、西城学びの連携推進室主幹、  
大沼高校教育課主幹、留守国際教育推進課主幹、遠藤主幹兼教育支援センター所長、  
堀越特別支援教育課主幹、大竹教育指導課情報化推進係長

### 5 傍聴者 1名

### 6 内容

#### (1) 報告事項

- ①第2回協議会の議事録について
- ②第2回協議会でいただいたご意見について
- ③1人1台端末の活用状況について
- ④仙台市学校教育情報化推進計画の進捗・評価について

#### (2) 協議事項

- ①仙台市学校教育情報化推進計画(令和5~9年度)令和8年度行動計画(案)について  
(教育指導課)
- ②ICTを活用した学校教育の推進について(教育センター)
- ③学力調査のデータを活用した授業づくりについて(学びの連携推進室)

### 7 議事要旨

会長挨拶

#### 【板垣会長】

GIGA スクール推進協議会第3回です。情報教育においては中央教育審議会の議論が進んでおり、情報技術の負の側面も含めてどう取り扱うか論議されています。

4歳の私のこどもはYouTubeが大好きでよく見ているので、いろいろな言葉を教えてもらい覚えています。様々なことに触れるのは良いことと思いつつも、なかなか止められないことがあります。お風呂に誘ってやめさせることもある現状です。また寝かしつけようとしてもこどもがなかなか寝てくれないこともありました。こういったYouTubeの負の側面がある中で、自分自身がこどもに背を向けてスマホをいじっていると、「お父さんはまだスマホが止められないんだね」とこどもに言われたことがありました。大人が上手にICT機器を使っているかどうかはさておき、いろいろな使い方を見せながら、こどもと一緒に使い方を考えるということが大切だと思いました。

ゆるい話でスタートしましたが、前回は台湾の人から見た日本の情報教育について話をしました。その後、議論があまり盛り上がりなかったところがあり、今日は少しゆるい話からスタートしつつ、皆様からもたくさんご意見等々いただきながら協議ができるとよいと思っています

す。

今年度中、全3回ある内の3回目ということで次年度に向けて重要な意味を持つ協議会と思っています。本日もどうぞよろしくお願いいたします。

(1) 報告事項

①第2回協議会の議事録について

【事務局（教育指導課 ICT 教育推進担当）】

資料1「第2回協議会の議事録について」報告（事前回覧により詳細の説明は割愛）

②第2回協議会でいただいたご意見について

【事務局（教育指導課 ICT 教育推進担当）】

資料2「第2回協議会でいただいたご意見について」報告

【板垣委員】

生成AIの利活用について、保護者との共通理解の観点から、授業参観を活用した情報モラルの授業が仙台市で以前取り組まれていたかと思います。この取り組みは、家庭と連携して共通理解を図るとてもよい場だと思っています。授業参観後の保護者会で、児童生徒が学校でどのように1人1台端末を活用しているのか保護者に体験してもらうなど、親子一緒のワークショップを開催した取り組みをよく目にしています。

これまでの情報モラルの取り組みを、経験や知見を活かしながら保護者と共通理解を進めていけるとよいと思います。

③1人1台端末の活用状況について

【委員（板垣委員）】

資料3「1人1台端末の活用状況について」説明

【板垣委員】

仙台市内で行われた調査の結果の分析と一緒に関わらせていただいた立場からご説明いたします。

2ページ目、大体昨年度と同じような形で集計してみました。

このグラフの見方は、学年別の活用率と書いていますが、凡例のところに0.0から1.0とあります。この数字は、各先生が授業を週何時間持っているかを示しています。さらにその持ち時数の中で端末を活用した授業を何回行っているか、その持ち時数分の活用時数の平均値を算出して0.2刻みでカウントしたものをグラフ化しました。

3ページ目、前年度との比較で横に並べていますが概ね同様の傾向でした。つまり、小学校だと、1年生、2年生、…、6年生に向けて、活用の頻度が学年とともに上がっていて積み重ねが見られます。6年生から中学1年生では、急に下がってしまい、0.0から0.2という一番右の水色の部分が半数を超えているという実情です。その水色のところが、50%前後でほぼ活用されていない先生が今半分程います。0.4から0.6という数値の大体使っていたり使っていなかったりする緑色の部分にあたる先生方は、5年生6年生だと半分程です。他の学年だと、さらに割合としては減ってしまう現状があると思っています。これは昨年度と同じ傾向でした。

4ページ目、これは小学校の低中高学年、つまり1、2年生と3、4年生、5、6年生です。さらに中学校と高校を5つのグループに分けて学年の違いや去年と今年の違いを表しています。分析したところ、2024年と2025年で活用の頻度に増減はありませんでした。さらに、学年別には、小1・2年生、3・4年生、5・6年生と中学校と高校で分けたときにその学年の間では活用頻度の差がありました。

どのような差かということ、小学校の低学年が一番使われていませんでした。その次に使われていなかったのが高校、中学校でした。その次が小学校の中学年で、高学年が一番よく使われていたという結果でした。この結果から、小学校の中学年と高学年で活用されてきているので、中学校と高校でそれがもっと加速すると理想的であるとこの結果から伺えます。

また、昨年度からの課題が1つあります。小学校6年生から中学校1年生で活用の頻度が下

がってしまう点です。このような集計から、中学校で、2024年から2025年にかけて数値が上がっているのが、現状の取り組みを引き続き進めていくとしっかりと結果が出てくると思います。この微増について、仙台市の取り組みの何が効いていて、どのような取り組みが功を奏して改善傾向になったのかを検討して、その部分を継続したり、さらに力を入れたりしていただけると良いと思います。以上のことが結果から分かりました。

これまでは、先生方の調査の結果ですが、こどもはどのように感じているのかを5ページ目6ページ目のところに載せています。

5、6ページ目、どちらかというところの方がコンピューターを使っているという実感はあったようです。ただし、この結果は、週に何回使っているか調査したもので、例えば国語のある先生が、国語で毎時間使っていると考えると、1日1時間ある国語では使っていると考えるように生徒側の方では今日は確かに使ったと考えてカウントして増えていると思います。そのように考えると教科担任制の影響もあると考えます。そのような活用もあるので、多くの先生がいろいろな場面で活用を進めていただきたいと思います。

7ページ目、昨年度と同じグラフですが、教科によって活用頻度が異なっているということです。学習内容を身につける場面の活用は当然考えられますが、教科の特性に依存しない学習方法で考えると、意図的に活用を取り入れれば、どの授業のどの場面でも比較的横串を刺して活用が進められると思います。この点も、引き続き課題だと考えられます。

#### 【稲垣委員】

2つお伺いします。1つ目が、2024と2025の比較をしているところの3枚目のスライドです。

確かに小6と中1の間のギャップというのはこれまでも課題としてまだ残っていると思いますが、高校3年生が大分伸びているように感じます。この辺りで何か使えるアプリが増えたとか何か環境が変わったとか、もし何かしらの背景があるのであれば教えてください。

2つ目が最後のスライドです。先ほど教科間のグラフを見せていただきましたが、技術科とか家庭科あたりは経年で3年生に向かって下がっていく傾向になっています。一方で、外国語や音楽は上がっています。この辺の違いが分かりません。特に技術科の場合、学校によって学年で取り組むカリキュラムがあると思います。その辺の背景事情やご存じのことがあれば教えてくださいました。

別件ですが、この調査を板垣会長に実施していただいているのは大事な仕事だとは思いつつ、これを会長の仕事としてしまうと、とても大変な話になります。例えば分散分析などの手法は特別なソフトがなくても簡単にできるようになっています。高校の情報化でも少し扱うぐらいになっています。そのように考えると、ぜひ教育委員会の方でもこのような分析に取り組めるようになっていただきたいと思います。

#### 【板垣委員】

今年一緒に分析する話をいただいていたのですが、タイミングを合わせるができずに引き取ってしまったので、次年度またよろしくお願いします。

技術・家庭科について技術科の立場から申しますと、中学校1、2年生で材料加工や生物育成を実施することが多いです。プログラミングや情報の内容を2、3年生で実施することが多いので、技術科において1年生から2年生で数値が上がっていることは想像できますが、3年生で下がっている部分は、授業時数が1年生から2、3年生に向かって半分になるので、その辺りが関係していることが想像できます。技術科の学習については、情報技術を基盤とした生産技術等の内容が中央教育審議会でも出ているので、様々な場面でこのスライドの理由で言うところの学習方法やツールとして使えるようになっていくことが重要視されています。その辺りも全体的に底上げが必要になると感じておりました。

#### 【事務局（高校教育課）】

1人1台端末の高校への配備は令和4年から始まり令和5年に全校配備されました。その過程で当時の高校1年生、2年生、そして今年度の3年生と学習を積み上げていく中で、先

生方と生徒で1人1台端末を活用した授業が展開されたことが要因として考えられます。また、総合的な学習の時間における探究の時間の展開もあり、使用率が高まっていると考えております。

**【稲垣委員】**

高校も含めて全学年で、1人1台端末を日常的に使用する環境が整ってきた認識です。このような状況ですと、この先の活用について検討しないとこれ以上活用が伸びない可能性があるため、端末活用の進め方を工夫するとよいと思います。

**【安部委員】**

小学校の端末活用に関しては大分落ち着いてきた認識です。この結果にある小6と中1の下がり具合が毎回話題になりますが、例えば他の政令市等仙台市以外で板垣先生や稲垣先生がご存じの状況があれば教えてください。他自治体の取組例から小6と中1のギャップを埋めるヒントがあるかもしれないので、その辺りについて教えていただければと思います。

**【稲垣委員】**

この調査方法と全く同じではないですが、教育の情報化実態調査や文科省の全国学力学習状況調査等でICTの活用状況を見ています。中学校に関して言うと、仙台市は全国平均から見ても高いとは言えない状況になっています。他自治体の事例の話以前に、そもそも仙台市の場合は端末活用について追上げが必要である状況だと認識しています。

**【中村委員】**

最後のスライドで教科別の活用頻度がグラフになっていますが、保健体育が落ち込んでいる状況が顕著に見られます。

先週の金曜日、広瀬中学校で体育の授業提案をする授業づくり訪問がありました。授業提案はマット運動で、グループごとにタブレットで倒立前転等の運動の様子を映し出して、グループ内で運動の様子について話し合いながら、その技を獲得していく授業内容でした。

そこで、この授業を武道館で行っていたことに課題を感じました。武道館で授業を行っていたのは、体育館にWi-Fi環境がないからです。体育の先生方としては、生徒同士が運動の様子を見合ったり、話し合ったりする活動は体育館で行いたいと考えています。体育館にWi-Fiが設置されている学校数がどれぐらいあるのか把握している事を教えてください。また、今後設置していく予定があるのか教えてください。本来であれば、試行錯誤しながら、1人1台端末を使って授業を行いたいと体育の教員は考えています。校内でもWi-Fi環境を整えるようにチャレンジはしていますが、大きな課題となっているので現状と今後の展望を教えてください。

**【事務局（ICT教育推進担当）】**

市内小・中学校の体育館でWi-Fiが利用できる学校と利用できない学校が混在しております。利用できる学校は、直近で体育館の改修等があり回線が届いている学校が10校程度あります。その他、体育館と校舎に距離があるという理由で、ホームルーターを配備してインターネットを利用している学校が50校弱ございます。その他、体育館と校舎が近い場合は、LANケーブルを引いて使える状態にしている学校もございます。ホームルーターの配備を広げたいと考えていますが、予算的な問題もありまして現在検討を進めている段階でございます。現時点での解決策として、直接通信回線を使用できるLTE機の端末を各学校に配置しておりますので、その端末から1台につき10台程度通信をつなぐことができるテザリング機能で対応していただいています。今後、できるだけ早期に配備したいと考えているところでございます。

**【板垣委員】**

LTE機端末は各学校にどれぐらい配備されていますか？

【事務局（ICT 教育推進担当）】

各学校児童生徒数の1割程度の台数です。

【板垣委員】

それは普段、児童生徒が利用している端末の中にLTE機端末が含まれているということですか。

【事務局（ICT 教育推進担当）】

配備している理由は、本来ご家庭にWi-Fi環境がないご家庭のために直接通信できる端末を配備しております。現在、そのような理由での端末の貸し出しは少なく、大体のご家庭でWi-Fi環境をご用意されているため、今は教員が使用したり、予備として準備していたりする学校の方が多様な状況でございます。

【板垣委員】

応急処置的なテザリング機能の利用とのことですが、比較的使いやすい状況にあるとのこと。利用したい時に利用できるなどのインフラ面の整備もポイントになります。

【稲垣委員】

広瀬中の件については、広瀬中の体育館のすぐ近くに技術科の教室があるので、回線を引きやすい状況にあると思います。Wi-Fi環境を利用して授業したい先生がいらっしゃるのであれば、サポートが必要であると思います。

体育館のWi-Fi環境の件で、防災の避難所のインフラとしても大事であるという話がありました。結局そういった話が浸透しないまま現在に至っていると思います。教育委員会の話とは若干ずれるところもありますが、どうしても学校が避難所にならざるをえないという現状があるので、仙台市として避難所の通信インフラをどのように整備するのかという観点からも引き続きご検討していただけるとよいと思いました。

④仙台市学校教育情報化推進計画の進捗・評価について

【事務局（教育指導課 ICT 教育推進担当）】

資料4 仙台市学校情報化推進計画の進捗・評価について（報告）

（2）協議事項

①仙台市学校教育情報化推進計画（令和5～9年度）令和8年度行動計画（案）について

【事務局（教育指導課 ICT 教育推進担当）】

資料5 仙台市学校教育情報化推進計画（令和5～9年度）和8年度行動計画（案）について（報告）

【佐藤委員】

ICTの活用について、その数値目標や仙台市としての方向性は分かりますが、実際の学校ごとの受けとめ方は異なる部分があると思います。その中でも端末の活用に差が出ないようにするためには、仙台市として重視する部分を共通理解することが非常に大切だと思います。また、教育委員会と家庭と学校とで理解する部分を共有して、学校から家庭に波及させて進めていくことが大切だと思います。学校数が多くて難しい部分もありますが、学校から家庭に受け止めてほしい内容が明確になっていないと学校間で差が出てしまいます。仮に端末活用の取り組みの差が出た場合に、各校の努力の差と言われるのも学校側としては辛いところだと思います。今後、どのように考えていらっしゃるのか、保護者として聞いておきたいので教えていただきたいです。

【事務局（教育指導課 ICT 教育推進担当）】

当然、本来的には学校によって端末活用に差があってはいけない認識ですが、学校ごとに差が出てしまうのは、ゼロにはできないと考えています。

教育委員会としては学校を全体的に底上げする必要があると考えます。例えば、先ほど文書を示すとお伝えしたように、各学校で実施する事項を明確に示して一律に依頼するといった働きかけが考えられます。このように、教育委員会は全体的な底上げを図っていく役割を担う必要がある認識です。今後も努力を進めて参りたいと思っていますところでございます。

**【稲垣委員】**

仙台市でデータを取られている中で、学校ごとの集計をされていて、極めて端末活用が進んでいない学校が一部あり、それに対するてこ入れを頑張りたいということが過去にありました。今でもそのようなデータを出そうと思えば出せるとは思いますが、現状としては、教育委員会側の見方としては、個別の学校対応よりも全体的に底上げすることを検討しているのか状況を教えていただきたいです。

**【事務局（教育指導課 ICT 教育推進担当）】**

多少差はあるとは思いますが、極めて端末活用が進んでいない学校があるとは現在思っていないので、全体的に少しずつ底上げしていく方向性が必要だと考えています。

**【稲垣委員】**

情報活用能力の話で、C-4 のプログラミングのところが課題との話がありました。この話は、先ほどの学校間の差が出ないようにすることにもつながりますが、情報活用能力 C-4 の数値については、どのようなルートで学校の先生方に届いていて、どのような改善に結びつくのか、学校に伝える経路や対応方針を教えてください。

プログラミング学習については、仙台市の場合、お勧め単元表の中に実施単元が対応していて授業実践する指針も出されているところです。プログラミング学習の事例とセットで重点的に学習することができるので仙台市としてはアプローチしやすいと思います。また、そのためにこのようなデータを取られていると思いますので、現場への届かせ方について教えていただきたいです。

**【事務局（教育指導課 ICT 教育推進担当）】**

先ほどの説明にもあった通り、プログラミングに関わる部分なので、プログラミングに関する研修の中で今回の結果について周知しながら、C-4 部分を丁寧に取り扱い充実させていきたいと考えています。また、科目として技術・家庭科で取り扱われることが多いと思います。技術・家庭科の教科研究会等でプログラミング教育について情報提供して周知を図っていきたいと考えているところでございます。

**【稲垣委員】**

プログラミングの研修は悉皆ですか。

**【事務局（教育指導課 ICT 教育推進担当）】**

希望研修です。

**【稲垣委員】**

希望研修の場合、手厚い研修としては大切ですが、改善に繋がらないと考えています。各学校の担当者に伝えるよりも、学校としてマネジメントができるかどうか大切です。学校管理職の教員等がマネジメントして学校で取り組む必要があります。また、教育委員会としても体制整備についてぜひ進めてほしいと思います。

**【板垣委員】**

プログラミングの学習内容における C-4 の部分は、技術科の学習の中で学ぶものでもあり、

情報活用能力として学ぶものでもあります。今まで小学校では教科がありませんでしたが、問題解決の手順を表す学習は、その手順を図で表すことを考えると、様々な学習で学ぶことができます。例えば、理科の実験の手順を図で表す活動や運動会の一日の流れを図で表したりする活動が考えられます。このように、学習内容を工夫することでプログラミング的要素を学ぶことができますと思います。さらに、学習内容を子どもたちに意識化させることでプログラミングの学習が可能になる部分があるのでお伝えします。

#### 【井阪委員】

教育委員会や学校からの保護者へ向けたおたより等については、内容をかみ砕いて分かりやすくしていただけることで今後につながると思います。子どもが中学校時代、コロナ禍に関する教育委員会からのおたより等があり、学校から子どもを通して受け取りましたが、何回か保護者同意の印鑑を押さなかったことがあります。それは、文章の表現や内容がなかなか理解できなかったり、いろんな捉え方ができて腑に落ちない部分があったりしたため、学校に説明してもらったことがありました。今後、おたよりの内容を保護者に理解しやすく整理していただくと大変ありがたいです。

また、1人1台端末の活用が進む中で、先生方がどのように研修を受けているかという部分です。先生方は、授業を調整して研修に参加していると思いますが、特定の教員がICTに特化して研修を受け、各学校に研修内容を持ち帰り学校のICT推進をリードするような専任的な役割を担うことはできないのでしょうか。そうすることで、年齢層の違いやICTへの得手不得手など様々な教員への働きかけが可能になると思います。以前勤めていた企業では、挨拶とサービスマナーに特化した専任の職員を配置したことがあり、その結果業績が向上したということがありました。ただ、そのためには人員確保や費用の面など、課題もあるかとは思いますが、一提案でございます。

#### 【板垣委員】

教育委員会や学校からの保護者へ向けたおたより等について、おたよりの内容を保護者が理解しやすく整理していただきたいというご意見をいただきました。また、ICTに関する研修を受講した教職員がどのように校内で共有しているのか、さらにICTの専任教諭など情報に関する教育に特化した取り組み例などがあるのかという提案がございました。

#### 【事務局（教育指導課 ICT 教育推進担当）】

保護者向けのおたよりについては、分かりやすいように、今後心がけたいと思っております。研修の受講については、年数別の研修や悉皆、希望の研修を受けていただいております。また、状況に応じて、オンデマンド等を使って時間外に研修を受けていただいております。教職員の研修においては、様々な受講形態があります。お話にあった特化した人材については、予算の問題もありますので容易に配備するのは難しい状況ですが、研修を受講した先生には学校に戻った際に研修内容を学校内で伝達講習していただくことを基本的に推奨しております。特化した取り組みではありませんが、基本的には研修内容を広めていただく前提で進めているところでございます。

#### 【井阪委員】

伝達講習は必ずされていますか。

#### 【事務局（教育指導課 ICT 教育推進担当）】

研修内容によって異なる部分はありますが、校内研修等で基本的には実施されている認識です。

#### 【安部委員】

全ての研修ではありませんが、研修してきた内容を積極的に校内で広げている状況はございます。例えば、職員会議の中で時間を設定して伝講する場合がございます。

#### 【及川委員】

中学校の教科別のデータから ICT 活用について感じていることをお伝えします。教科によっては ICT の活用が合わないこともあると思います。特に実技教科に関しては、無理に活用率の数値を意識しなくても、その学習状況に応じて、利用しない場合があってもよいと思います。このような会議なので ICT 活用を推し進める方に話が進むとは思いますが、数値ばかり意識して内容が伴わなければ意味がないと感じています。あまり無理をしなくてもよいと考えています。

子どもたちは自分が疑問に思えば、自宅でも検索するためにネットは活用します。授業で無理に ICT を活用すると、活用することに集中して感じた内容が頭に入ってこなくなるのではないかと心配しております。

このような会議なので、数値化して数値目標を上げる話になるのはありがたいですし、そのような方向になるべきだとは思いますが、無理はしない程度にお願いします。

#### 【板垣委員】

ICT を活用した回数、量の話で、今いただいたお話はその量に対して質のお話だと思っております。本会議では、その量の部分を中心に、会議資料や活用目標が質と比べると分かりやすく指標として示されているところがございます。

個人的には、ICT を活用するから理解が進む部分があると思っています。結局 ICT の利活用を進めないといつまでも利活用が進まないままで、効果的に活用してもより良くなる場所を見落としてしまうことがあります。量が先に来て、その次に質がと伴ってくるという感覚を持っています。

#### 【越坂委員】

質に関する話は本当にその通りだと思って聞いておりました。本校でも、令和 6 年度までは、ICT 機器の活用を推進するという内容を学校目標の中の 1 つに設定しておりました。令和 7 年度からそこに効果的な ICT 機器の活用を推進すると文言を追加して今年度スタートしました。先生方の世代で利用の差がありましたが、令和 6 年度に校内研修をして、様々な科目の先生方が各授業の活用場面を紹介する研修会を 2 回開催しました。それを経て、7 年度は目標の文言を追加してスタートしたということです。ベテランの先生方も、毎時間利活用するというのではなくて、単元に応じた活用方法を実践したことを複数の先生方から面談の際に聞きました。このような流れから、今年度 ICT 活用にチャレンジする機運が校内で上がってきているのでとてもよいと思って見えています。

常に ICT を活用すればよいということではなくその教科や単元で効果的な活用方法を工夫して生徒の理解を深めるという視点が一番大事だと思います。その流れを令和 8 年度も本学校で大事にしたいと思っています。

#### 【稲垣委員】

数値の話が議論なっていたのでコメントいたします。数値は当然のことながら、利活用の有無に限らずどのような学びに利用しているのかを考えることが大切です。中学校のデータを見ると、一番下の児童生徒が自分の特性や理解度進路に合わせて利用しているという部分は、割と他の項目に比べると、伸びているように見えます。ただ、それが意味するところは、いわゆるデジタルドリルを実施しているだけという可能性があります。

仙台市の場合は、navima を導入している自治体の中でもデジタルドリルの活用が非常に高い状態です。そのようなデジタルドリルの活用状況ですが、使い方がドリル一辺倒になっていた場合は心配です。また、児童生徒同士の協働学習で利活用する部分にも心配があります。実は効果的な活用とは、別の軸になります。今、文部科学省では、デジタル学習基盤と言うようになりましたが、その言葉が意味するところは、教科のこの単元で使うと効果的という話の前に、日常的に 1 人 1 台端末の利活用を進めるからこそ効果的な姿が見えてくるというものです。普段から端末の利活用が進んでいない中で教科や単元を考えても効果的があまりないとい

うことになり、実は次元が違う話を議論している状態です。

そう考えたときに、協働学習するための利活用が低い状態は、日常的な利用とは言えず、端末活用が定着していない状態にあると思います。その中での活用になってしまうと、ピンポイントの活用になってしまい、それが進んでいくと、結局1人1台でなくてよいという話にもなってしまいかねない危うさがあると思っております。そのように考えると、児童生徒の協働学習や先生とのやりとりも含めて日常のコミュニケーションの中でどのように利活用していくのかという部分が仙台市はまだまだ課題だと思っております。その部分に対応する研修がどれくらい設定されているのか教えていただきたいです。その研修は、ロイロノートの使い方講座等の内容ではでは不十分だと思います。実際に学校現場で日常的に授業や学校生活の中で利活用していくための研修が必要であると考えます。

#### 【事務局（教育センター）】

ICTに特化した研修という枠の中では端末活用研修になっておりますが、教科別の研修におけるICTの活用については、常に研修内容に入っているのが現在の研修となっております。

あわせて学校への授業づくり訪問等の学校への指導の中でも、ICTの活用に重きを置いて進めているところでございます。

さらに、OJTサポート訪問という形で、学校の方から要請があった際に臨機応変に対応できるような研修体制も整えております。特定の研修に情報だけを特化しているというよりは、研修全体を通して教科研修の中でも端末活用を取り入れて実施する体制で対応しております。

#### 【稲垣委員】

各教科の研修においてICTの基礎的な内容を含めた研修は多く実施されてると理解いたしました。他の自治体を見に行くと、どこの教室でも普通に端末を利活用していて、特に凝った使い方をしているわけではないですが、当たり前前に便利に使ってる状況を目にします。あの雰囲気は仙台市の中でも実施されている学校はきっとあるとは思いますが、そうではない学校を見ることも多いというのが現状だと思います。

その部分考えたときに、日常的に利活用を進めるメッセージというのは、ぜひ発信していただき、普段の利活用へ進んでいくと、よりよい学びが生まれることをアピールしていただければと思います。

#### ②ICTを活用した学校教育の推進について

##### 【事務局（教育センター）】

資料6 ICTを活用した学校教育の推進について

##### 【安部委員】

本校の取り組みについて報告させていただきます。

本校は、新規生成AIパイロット校の取り組みとして1年目でした。本協議会の1回目にも話しましたがゼロからのスタートでしたので、最初に教員の生成AIについての理解を深めることにしました。本校に宮教大の岡本先生や関西大の黒上先生にお越しいただき研修を早々に設定して、生成AIについて学ぶことができました。その上で、発達段階を考慮して、4年生から6年生に限定して利活用を進めました。主に、総合的な学習の時間に、情報の収集や分析で活用を進めてまいりました。

6年生に関しては、個人探究なども取り入れて、学習内容を確かめていく活動に生成AIを利活用いたしました。中学校ではGeminiを利用していましたが、小学校は発達段階を考慮して「みんなのコード」で公開している「プログルラボ」を利用いたしました。生成AIについては情報が古い部分もありましたが、学校の方で比較的管理しやすく、こどもたちが入力したプロンプトを管理できるので、初めて取り扱わせる段階としては最適だと考え、「プログルラボ」を中心に実践いたしました。

現在の生成AIはアップデートが進み、画像生成が簡単に実行できるようになるなど、生成AIの進化が激しいこともあり、本校ではGeminiの活用については現在検討しているところです。

現時点では、「プログラボ」を活用して生成 AI を理解することを確かめる段階で今年度は終わりました。

#### 【板垣委員】

各学校が真似しようとしたときに館小学校の実践は非常に貴重だと思います。特に、歩んできた実践のプロセスを参考にしていくことになると思うので、各学校に普及して横展開できるとよいと考えています。

#### 【安部委員】

総合的な学習の時間を利用して生成 AI について学ぶ実践を行ってきましたので、来年度の総合的な学習の時間のカリキュラムに取り入れました。

#### 【及川委員】

今朝、中学生の息子と、朝ご飯を食べる服装はパジャマで食べるか、制服に着替えてから食べるかということについて口論になりました。その時に、息子は ChatGPT に根拠となる相談質問を投げかけて即座にプレゼンされました。子どもたちは生成 AI についても覚えるのが早く、上手に活用していると思う反面、肖像権や著作権等の法的なモラルに関しては学校で指導いただいているので、子どもたちは気をつけて素直に聞き入れている感じがします。一方、メンタル面のモラルですが、生成 AI が回答したことが絶対のように感じている様子が見られるので、保護者としては、生成 AI は絶対ではなく、参考程度に使うことについて家庭からもアプローチしていこうと思います。生成 AI を利用した活動も大事ですが、友達との対話や関わりも大切であることも同時進行でご指導いただけるとありがたいです。

### ③学力調査のデータを活用した授業づくりについて

#### 【事務局（学びの連携推進室）】

資料 7 学力調査のデータを活用した学力向上の取組について

#### 【稲垣委員】

スライドの 8 枚目のグラフ等、資料にどこを対象にしたデータなのかが書いてないことがあります。この資料は仙台市 HP にも出るものなので、はっきり明記していただいた方が、多くの方が見られると思いますので誤解がなくなると思います。

さらにこちらの資料に関しては、確かに国語の活用としてはよい利用方法だと思いますし、今後も進めていただきたい一方で、先ほどお伝えしたような日常利用の話になると、各教科の効果的な活用とは思えません。

例えば、学習計画を立てておいて、そこに対する目標設定や振り返りについて、いわゆる自己調整的な学びにおいてスプレッドシート等を利用している事例は全国的に広がっています。このような各教科の取り組みという視点から見ると、仙台市からは分からない状況です。仙台市内でも取り組んでいる先生はいると思いますが、取り組まない先生もいます。学力という意味では、自己調整的な学びは各教科の前提となる力なので、学び続ける姿勢や学習意欲を育ていくために非常に大切な活用方法だと思います。それが事例として上がってこないということは、研修としても見えていない部分なのだと思います。この部分は仙台市としての課題だと思って聞いておりました。

中学校の社会で Gem を使っている事例がありました。子どもたちが考えていなかった視点や情報等、こどもの考えを広げる意味ではとてもよい使い方だと思っております。一方で、そこで出てきた回答の信頼性から現実に戻すところが学校教育の大切な役割だと思っています。例えば昨年視察ところで言うと、つくば市の小学校でも歴史登場人物について Gem に類似する生成 AI を利用していました。でも子どもたちの傍らには教科書資料集、それから関連図書等が置いてあり、子どもたちが自分で情報の信頼性について資料で確認する指導をされていました。このように、生成 AI に対して子どもたちがやみくもに信じてしまうことのないようにリテラシーを高める取り組みは大切だと思っています。ぜひそんな事例が今後出てくることを期待して

聞いておりました。

事務局挨拶

【事務局（郷家副教育長）】

板垣会長を始めまして、委員の皆様にはご多用のところ、この1年間、ご協力をいただきまして本当にありがとうございます。

全3回に渡ります本協議会におきまして、様々なお立場、そして視点から貴重なご助言を賜りましたこと、心より御礼を申し上げます。

現在、本市の教育局におきましては、GIGA スクール構想第二期とも呼ばれております端末機器の更新、それからネットワーク強化の時期を迎えているところでございます。国におきましては、デジタル学習基盤を前提といたしました次期学習指導要領の検討も進められているところでございます。このような中、本日お話にもございました生成AIのような新しいデジタル技術の特性、こういったものを理解しまして、利活用すること。こういったことも、これからますます重要となって参るところと考えております。児童生徒が情報を正しく読み解き処理し発信する情報活用能力、こちらの方を身に付けまして、将来にわたり、他者と互いに認め合い、自分らしく学び続けていく力、これを育てていけますよう、学習環境の整備充実を図るとともに、引き続き教員、学校への支援を教育委員会としても行って参りたいと存じます。

今年度の協議会につきましては本日で終了となりますが、ここでの議論を起点といたしまして、学校現場におけます実践に生かせるよう、さらに力を尽くして参りたいと存じますので、今後ともそれぞれのお立場からぜひ忌憚のないご意見を頂戴できればと考えております。よろしく願いいたします。

甚だ簡単ではございますが、以上で私から本年度最後の会としてのごあいさつとさせていただきます。

本当にありがとうございました。

【事務局（教育指導課）】

本日はご多用の中、本会議へのご出席ありがとうございました。  
これで令和7年度第3回仙台市GIGAスクール推進協議会を終了いたします。  
長時間にわたるご協議、誠にありがとうございました。